



都からの未来人

祖谷・大歩危の地には数々の伝説が伝わります。その一つが、ここに住み始めたという祖谷山の祖先の物語。「恵伊羅御子」と「小野老婆」という智慧や技術を持った人物が五穀の種を携えて、祖谷の山に分け入って集落を作り、機織りや農耕を広めたといわれます。二人が山に入ったのは天平勝宝四年(七五二年)とも言われていますが、この年は奈良の都で東大寺大仏の開眼供養が行われました。当時の祖谷で、狩猟などを主とする人々の暮らしは、まだ原始的だったのかもしれない。そこに都の先端テクノロジーを持ち込んだ人々は、崇敬を集め、祖谷開山の祖と慕われ続けました。情報が遮断された祖谷では、ゆつくりと歴史が動いていたのです。

恋をかなえ愛を守る

鎌倉時代に起こった元弘の乱により、土佐に流された尊良親王の後を追って、都からやってきた加羅宇多姫は、祖谷の山に分け入りこの地で若君を出産します。けれども過酷な山旅による早産のためか、介抱のまいなく小さな命を助けることはできませんでした。悲しみのなかで土佐に向かった姫ですが、すでに親王は九州に発つた後、悲嘆に暮れて来た道をもどりましたが、産後の肥立ちが悪く帰らぬ人となりました。旅路の山中で愛する人も愛し子も次々と失った姫。その悲しさは祖谷の谷底よりも深いものがあつたことでしょう。その思いは、いつしか愛を請う女性たちの願いをかなえる強い信念となり、加羅宇多姫を祀る古宮神社は、恋愛成就や安産祈願を祈る女性たちの守り神となりました。

伝説の里

はるか奈良時代や鎌倉時代を身近に感じる祖谷の地。千年、五百年と変わらぬ風景や物語がここにはあるのです。

恵伊羅御子の墓

関定名の小高い丘の上、通称「お山さん」にある「恵伊羅御子の墓」。見送ってしまいたいそう小さな祠だが、今なお地元の人々が大切に花を手向けています。



若宮神社

西祖谷の中心地にある若宮神社。尊良親王と加羅宇多姫の愛の結晶は、本当にはかない命でした。今は子どもたちの健やかな成長を見守っています。



古宮神社

ロッククライミングでも知られる古宮嶽の下にある古宮神社。山道をひたすら進んだその先に恋愛成就と安産の神様を祀っています。